

第3次適正規模・適正配置実施方針に関する主な意見等

第1回審議会で頂きました意見・提案等(発言・書面提出含む)を踏まえて、第2回審議会の資料を提示するとともに、審議ポイントを提案しています。 *構成の都合上、文章を分割・簡略・編集しています。

		主な意見
① 学校の適正規模	1	少子化が進展する中で、様々な個性を持った生徒間での交流が、これまで以上に重要になってきている。
	2	多様な人間関係を育むことのできる規模の確保や一つの学年に複数の学級があることが望ましい。
	3	適当な規模があった方が教職員の人員確保、児童を入れての多様化の確保がなされ、良いだろうとは推測される。
	4	学校規模だけではなく、学級規模も大切だと思います。 主体的な学びのためには、クラスの人数を減らしたほうがよい側面もあります。
	5	1学年1クラスあたり20人ぐらいで6クラスあり、大幅なクラス替えができるというのが理想だと考えていますが、残念ながら、現在の日本のシステムではできない。
	6	「教育環境」という言葉の意味をしっかりと捉える。
	7	「学校規模の適正化」について、妥当であるとする。
② 学校の適正配置	1	学校と地域が密接な関係を築けるように通学区域を定めることが重要である。
	2	「学校の適正配置（通学条件）」について、文部科学省の手引きを踏まえており、通学距離の基準は妥当であるとする。
	3	小学生の足で4kmの通学は難易度が高いのではないかと また、1kmと4kmの通学では公平性に欠ける（義務教育でありながら通学に時間とお金がかかることもとそうでない子どもが存在することの公平性）。 2.5km以上はスクールバス等の対応も考えているのか。
	4	適正規模配置条件についてもこれからの時代、スクールバスや自転車通学（中学生について）という手段も視野に入れなければ現状に追いついていけない。
③ 学校の「規模」と「配置」の関係	1	学校規模の適正化が必要なことは理解できますが、地域の実情に即した最適配置にはかなり難しいものがある。
	2	地域も学校も懸命にふるさとづくりに力を入れ、コミュニティといえる新しいまちをつくりあげているのに、これを分解するようなことを住民に納得させるのは至難のわざ。
	3	子ども中心の視点を置くことと、地域の中での学校の配置は今まではニーズや実情が重なっていたが、ここまで少子高齢化となり、それが加速されることが予測される今、ずれてきている。
	4	「適正規模・適正配置の基本的な考え方」について、妥当であるとするが、「通学手段は弾力的なものとする。」の意味するものが不明。
	5	適正規模・配置の基本的な考えはその通りだと認識します。
	6	中学校区を中心とした地域の単位がなくなったり、変わると医療などを含め様々な分野が影響を受けます。このような視点も持ってもらいたいと思います。
	7	地域のコミュニティの中心に学校があるのではなく、地域コミュニティの中に学校を置くコンセプトにした方がよい。

		主な意見
③学校の「規模」と「配置」の関係	8	与えられた規模のメリットを最大限生かして、教育活動や学校運営で難しい部分をサポートすると考える方が、どの規模が良いかと特定するよりは建設的だと感じました。
	9	『地域特性』についてどのようにとらえているのか。各地域に根差した団体（育成委員会・自治会など）に意識調査などして地域のニーズを調査し、それぞれの地域を理解してほしい。
	10	規模の課題は、他国の状況をみてもこれからはIT化が進み、程度克服できるとも思われる。勿論、実際に複数の人達や集団単位で人と関わる中でこそ獲得できる成長やスキルもあるので、適正規模についてすべて否定したいわけではない。
	11	小中一貫だけでなく、中高一貫や義務教育の4・5制も一つの考察事項。
④基本的な進め方	1	学校の統廃合は、跡地利用も含めて考える必要がある。これが地域特性を創出するのではないか。
	2	A校、B校どちらにするといった時、廃校になる学校の跡地が図書館になるか老人センターになるかといったことは大切な判断材料。どちらに統合されても同じというわけではないだろう。学校の統廃合は、子どもの問題だけではなく、地域全体のデザインでもある。だからこそ、跡地利用が大切。
	3	自治体や周辺の価値低下にならないよう、統廃合した後の学校跡施設の活用を同時に計画する必要がある。統廃合と廃校の活用・整備(改修・補修)三位一体での計画が必要だと認識します。
その他	1	基本的な視点ということですが、子どもファーストという視点はとても大切だなと思いました。
	2	「こどもファースト」の理想は多角的な視座の妨げになりがち。例えば教員の若年化で、彼らの力量向上環境の保証のために、小学校高学年は中学校のように教科担当にして教職員を増やすというのも一つのやり方。
	3	理想論の提示も大事だが、少子化必至の未来で、今後どのようにしてスムーズに統廃合を進めていくかと言うことに議論の本質はあると思う。ならば、それに向けての多角的かつ具体的に提言を進めていくべきではないか。
	4	適正配置については、財政面と教育環境の二本足でしっかり立つべき。
	5	第2次適正配置で節減できた経費とその使い道は。
	6	平成28年度千葉市・大学等共同研究は、その限界性は踏まえながらも、「数値化された学力」を検査指標としており、一定の説得力がある。
	7	統廃合を意識した過渡的措置期間を設ける等必要ではないか。（廃校予定学校の新入生を受けない等）
	8	こどもの事や自治体ごとの考えがある中で100%賛成は考えられない。であれば、理解はできないが納得はしたという計画が必要ではないかと思う。
	9	児童生徒の減少を見据え、小、中、高、大連携をより一層深め、教育内容の連携、及び施設使用も連携して使用していくことが必要だと考える。長期的には、特に小、中、高の施設を同敷地内に建てることも連携を深めるきっかけになると考える。
	10	余る教室を使って小学校に併設の幼稚園や保育園をつくって、人を呼び込むような方式はとれないものか。
	11	不登校は引きこもり対策として、彼らが通えるフリースクールを小規模校に併設するとか、廃校になった施設をそれにあてるとかといった有効活用も考えられよう。

* その他: 総論的な意見や質問・感想、教育施策全般に対する提案等